

12年間継続している環境保全活動に従業員ら116名が休日返上でボランティア参加 オルビス、「甲州市・オルビスの森」で植林イベントを実施

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:町田恒雄)は、山梨県甲州市に広がる荒廃した森林を里山として再生する「甲州市・オルビスの森」プロジェクトの一環として、4月13日(土)に従業員ボランティア及び関係者が植林活動を行いました。

オルビスは現在推進しているブランド再構築の施策として、行動指針「オルビススタイル」を策定し、従業員の意識改革に取り組んでいます。そのなかの一つに「I am 地球市民。すべてのアクションは地球につながる。」という指針を掲げ、従業員一人ひとりが地球環境と向き合うことをより啓発した結果、今回は前年比約1.4倍超となる116名の従業員、関係者が参加しました。



↑「甲州市・オルビスの森」入口に立てられた看板(現地間伐材を利用)

「甲州市・オルビスの森」は甲州市塩山上小田原の市有林約100ha(東京ドーム約21個分の広さ※)で、公益財団法人オイスカの仲介により、オルビスと甲州市が同地の整備、保全に向けた協定を2011年1月31日に締結しました。

オルビスは2012年度から10年間にわたって植林や間伐、下草刈りなどの整備を行い、人と森をつなぐ里山として再生させるプロジェクトを推進しています。

2年目の活動となる今年は好天に恵まれ、グループ関係者や家族連れも参加する中、ヒノキ、クスギ、クリ、ヤマザクラ、カエデなど1,650本を予定どおり植林しました。

オルビスは1987年の創業当時より、事業活動において様々な環境負荷低減の取り組みを行っています。2002年からは公益財団法人オイスカ、行政と協働で、山梨県内における環境保全活動を開始。これまでに甲府市「武田の杜」の森林整備(2002年～)、鳴沢村富士山麓での「富士山の森づくり」プロジェクト(2007年～)で毎年春と夏の年2回、多くの従業員がボランティア参加してきました。「武田の杜」での活動は、その継続的な取り組みに対して、2006年、山梨県知事より感謝状が授与されました。

「甲州市・オルビスの森」のプロジェクトでは、今後も地域の方々を含めた様々な人が集い、“人と自然をつなげる”里山としての再生を目指していきます。

※東京ドームの敷地面積を46,755㎡として換算

オルビスでは環境への取り組みを専用サイトでご紹介しています。

是非こちらをご覧ください。

<https://www.orbis.co.jp/corp/csreco/>

【本件に関するお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス 広報・IR室

Tel 03-3563-5540 / Fax 03-3563-5543